

福祉文教常任委員長 中村 政義

1 神奈川県大和市 大和市立引地台中学校分教室

「学びの多様化学校（不登校特例校）について」

中学校同一敷地内に設置されているが、校門は別で一般制度とは隔離されている。市内在住で長期間学校に登校できない生徒、分教室で体験入学を行い、本人に入室の意思があることを確認して教育委員会が最終的に認めるといった段階をふんで入室が決まる。校則・制服はなく、生徒一人ひとりの個性や状況を大切に、自分らしい中学校生活を送れるよう支援していく。また家庭訪問を通じ保護者コミュニケーションを継続していくことで、保護者の意識改革を図っていくことも重要としている。

2 神奈川県川崎市 川崎ラクシル（官民共同運営）施設見学

「運営面の仕組み、評価課題などについて」

建設業者が建物を立て、市と法人がフロアーや部屋を買い取る形で管理それぞれがおこなっている。建物の共用部分は市と法人とで管理組合を作って管理、市と法人で柔軟なすみわけと連携ができていた。高齢者と障害者を受け入れ、高齢者は徳用で従来型とユニット形があり、更に視覚障害者への対応もあり充実していた。障害者支援は知的・身体・精神と区分していて更に宿泊自立訓練が精神のためにもあった。リハビリテーションは官民協働で運営していて、大変利用しやすくできていた。

3 神奈川県川崎市 川崎市子ども夢パーク

「子供の権利条例との関係、行政のかかわり」

24 年前施行されたこども権利に関する条例をもとに、具現化された施設であり、日本初の公設民営のフリースペースとして開設以来 20 年を超えている。不登校の子どもたちが、自由に活動し、休息して自分を取り戻し、ありのままの自分を取り戻す居場所となっている。運営資金は年間 8900 万円の市からの支給と寄付でまかなわれ、すべてが学校出席扱いとなる。

全体を通じて

今回 3 箇所の視察現場は、それぞれの状況は違えど行政指導で実現している。箕輪町も現状を把握し、単独では厳しい場合、広域での取り組みも考えていくべきだと思います。